

1. 児童の豊かな創造性を発揮できる学習環境をめざす。

「学びの場」として高機能・多機能な学習環境を整備する。

- (1) 少人数学習、グループ学習や学級の枠にとらわれない学習集団の編成に柔軟に対応できる校舎とするため、オープンスペースと連動した普通教室や、大小の様々な学習空間を設ける。
- (2) 図書、IT、メディアなど、総合的に学ぶ場や、英語教育、ランチルーム、土曜スクールなど、多様なニーズに合わせた様々な教室・設備を整備する。
- (3) 普通教室の学習環境を高めるため、可動壁、扉、吸音材など、総合的に考慮する。

2. だれもが使いやすく、居心地のよい学校をめざす。

集団生活の場として、健康的で、環境に配慮した施設整備とする。

- (1) 楽しく過ごしたり、落ち着いたりできるよう、変化に富んだ様々な空間を用意する。
- (2) 屋上・壁面緑化や風通しのよい設計を行うとともに、先進的な環境共生の手法や断熱性能等についても検討し、環境にやさしく、児童にとって過ごしやすい環境を保つことのできる学校とする。
- (3) 限られた校地の中で校庭、体育館、屋上等について可能な限り児童が運動できるスペースを確保する。
- (4) 特別支援教育の実施を踏まえ、児童から高齢者まで不自由なく使いやすい校舎づくりを行う。

3. 安全で地域に支えられる学校をめざす。

開かれた学校として、地域の風が通り抜ける学校とする。

- (1) 施設の地域開放のため、学校専用ゾーンと地域開放可能なゾーンを分けて計画したり、学校を支援する人たちのスペースに配慮する。
- (2) 見通しのよい計画や防犯カメラなどにより死角の少ない学校とする。
- (3) 防災まちづくり計画に沿って、災害時の延焼遮断や地域の復旧の拠点とし、十分な機能と使い勝手を備えた校舎とする。

4. 地域のランドマークとして親しまれ、児童の思い出に残る学校をめざす。

統合までの記憶を残しつつ、将来へ向け児童や地域に親しまれる学校とする。

- (1) 杉並第五小学校、若杉小学校という二つの学校があったことの記念となるものを校内に設置する。
- (2) 地域住民に親しみが持て、児童にとって思い出に残るような外観等を整備する。

杉並第五・若杉統合新校校舎建設基本方針柱立て（案）

これまでの意見のまとめ

1－（１）様々な学習集団の編成に対応できる学習空間

少人数学習、グループ学習や学級の枠にとらわれない学習集団の編成に柔軟に対応できる校舎とするため、オープンスペースと連動した普通教室や、大小の様々な学習空間を設ける。

関連意見

- ・ 杉並区には杉並第十小学校以来のオープン教室の伝統がありますが、これをどのように総括し、どのように発展させるのか、どこが課題であって、どこが今後改善していくべきところなのかをきちんと総括しないと、杉並区の小学校計画のあり方の将来が見えてこない。
- ・ 習熟度別編成など少人数に集団を分けての学習が杉並区に本当に定着していくのかどうか。教育の方法論、現場としても、そういった方向で学校を考えていきたいということを確認できるかが、非常にこれから大事になってくる。
- ・ 今後長い間に渡って使える学校をつくるために、子どもたちの学習、生活空間はどうあればよいのかということここで議論する必要がある。
- ・ あえて閉じてつくっている学校もあります。閉じてはいるが、ガラス張りにして見通せるようにするなど、今、いろいろな考え方が出てきているので、オープン教室についても、皆さんから様々なご意見をいただきながら、考えていきたい。
- ・ 杉並第十小学校はもう築20年になるが、オープン教室のスタイルで、これはよいと感じた。
- ・ 現在の杉並第五小学校は視聴覚室のような広いスペースがなくて、先生方からもそういったスペースがほしいという意見が出ているが、広いスペースであると同時に、少人数学習にも対応できる狭いスペースもつくれるなど、多目的に使える工夫をしていただきたい。
- ・ 少人数指導の体制がとれる小学習ルーム（20人規模・各フロア）を希望する。

1－（２）多様な教育に対応する設備・教室

図書、IT、メディアなど、総合的に学ぶ場や、英語教育、ランチルーム、土曜スクールなど、多様なニーズに合わせた様々な教室・設備を整備する。

関連意見

- ・ 小中、中高の連携がこれから益々重要になってくる中で、校舎を造る上でこれも重要な視点になるのではないかと。
- ・ 土曜スクールの活動スペースの確保を希望する。
- ・ 多様な学校給食の提供のために多目的ランチルームの設置を希望する。
- ・ スクールカウンセラー用の教育相談室（談話室と個別相談室）や、カウンセリングルーム（職員室・保健室）などの相談施設の充実を希望する。
- ・ ミニコンサートがいつでも開ける階段式・扇形の音楽室を希望する。
- ・ 作品がいろいろな形で展示できる図工室と廊下（校内美術館構想）を希望する。
- ・ 和の文化（茶華道、邦楽）を体験できる和室の設置を希望する。
- ・ 校内のIT環境の整備も進めてほしい。スライドなどの映像によって授業を行うということもこれから多くなると思うが、照明などを工夫することによって、メモはとりやすく、映像もよく見えるような教室づくりを行っていただきたい。
- ・ 校内無線LANの構築（校務系、学習系）を希望する。
- ・ 各教室へのプロジェクター設置を希望する。
- ・ 調べ学習の拠点としてメディアセンター（図書室とパソコン室の融合）の設置を希望する。

杉並第五・若杉統合新校校舎建設基本方針柱立て（案）

1－（3）吸音性や壁の可動性を十分に考慮した学習空間

普通教室の学習環境を高めるため、可動壁、扉、吸音材など、総合的に考慮する。

関連意見

- ・ オープン教室であっても、天井・壁に適切な吸音設計をすることによって相当静かな環境になるという実績がこの数年で出ている。この点に関しては十分注意して、設計をしてほしい。
- ・ オープン教室にした場合、音はどうなのか。また、空間を閉じる必要がある場合にどうするのか。廊下と教室の間の壁は動かすことができても、教室と教室間の壁を可動式にすることはできないのか。
- ・ オープン教室であっても吸音効果を高める配慮をしてほしい。
- ・ 南池袋小は、オープンスペースと廊下が事実上兼用になっていた。そのことが騒がしくなっている原因ではないか。
- ・ 以前見学した杉並第十小は、中央に廊下があり、枝分かれのように教室が配置されていた。基本的に片方が行き止まりになっていた方が静かになるのではないか。
- ・ 南池袋小を視察して、音を吸収することが大事だと感じた。音が反射する場所に吸音材を付けることが大切だということが、以前の建設部会の際にあったが、そのとおりである。
- ・ 南池袋小は、音の響きを非常に感じた。構造の工夫により、吸音等は可能だと思う。
- ・ 杉並第十小は、パネルを用いて個々の教室をクローズにすることができたが、南池袋小はそのようではなかった。特に一年生のことを考えると、クローズできる方が良いのではないかと考える。

2－（1）児童にとって居心地のよい生活空間

児童が楽しく過ごしたり、落ち着いたりできるよう、変化に富んだ様々なスペースを用意する。

関連意見

- ・ 人間関係が薄くなる中で、子供同士の学び合いや担任同士の協力が出来やすい空間が必要ではないか。可動性のある、凸凹のある空間ができればよい。
- ・ 教室に適応しづらい子どもが最近増えてきているので、たとえば小さな部屋をつくってそういう子どもたちが補助教員の先生とそこに入って落ち着くまで静かに環境を整えとか、クラスからあまり隔絶せずに元に戻りやすいような、環境をつくっていただきたい。
- ・ 前任校の永福南小学校は昇降口を入りますと上まで吹き抜けになっていて、とても気持ちのよい空間だった。また、校舎と校舎の間が中庭になっていて、とても明るい。できる範囲で活かしたら素晴らしい学校になる。
- ・ カーペットは床に座れるだとか、よい所もあるが、アレルギーの子どものことなど、やはり衛生上の問題を考えると駄目だと思う。
- ・ 廊下は児童の踵痛防止や土踏まず形成に寄与するために、木または竹を材料とすることを希望する。
- ・ 南池袋小のようにランチルームを設ければ、同じ学年、異学年がいっしょに食事をして交流することができ、多目的室としても利用できる。

杉並第五・若杉統合新校校舎建設基本方針柱立て（案）

2ー（2）エコスクールを目指し、環境と共生する学校

屋上・壁面緑化や風通しのよい設計を行うとともに、先進的な環境共生の手法や断熱性能等についても検討し、環境にやさしく、児童にとって過ごしやすい環境を保つことのできる学校とする。

関連意見

- ・ 緑化だけでなく、クールチューブなどの先進的な自然採冷の手法も検討してほしい。これを採用している大学は窓を閉め切った状態で、外が35℃、室内温度は28℃だった。緑化だけでは暑さをしのぐのは厳しい。
- ・ 冷房是非論を超えて、冬の断熱や換気等も含め、子供達が本当に快適に勉強できる環境作りがなされていくよう要望したい。
- ・ 長い目で見ると、地球が温暖化していく中で環境を守っていかなければならないので屋上や壁面の緑化は必要と考える。それと平行して、冷房が必要になることも想定しておくことも大切である。
- ・ 今日のような暑い日に冷房のない環境というのは子どもたちにとっては非常に辛いものだと考える。今回は普通教室に冷房を設置しなくても、今後必要となった時に設置できるように建物をつくっておいてほしい。
- ・ 「ビオトープ」「芝生化」「太陽光発電」などをただつくればエコスクールになるのではない。つくったあとの管理と活用の仕方をよく検討してから設計を行う必要がある。そのためには地域生態系や、学校、地域の環境に関する取り組みを把握する必要がある。
- ・ 100年間使える緑地をつくるためには、維持・管理がきわめて重要であり、そのためには学校で行われている教育プログラムや、地域の取組といかに連携させるかが鍵になる。
- ・ 校庭の芝生化については、管理が大変だとか、養生のために校庭を使えない期間があると聞いている。草地ではだめなのかという声もあり、慎重に検討してほしい。
- ・ 学校建築は採光面が非常に大きいため、暖房効率の悪い、断熱性能のない建物になっている。たとえば、外断熱をして、ペアガラスにして、全熱交換の換気扇を入れれば、冬でもほとんどストーブを焚かなくてもよいぐらい断熱性能がよくなる。学校建築の基本的な構造を考え、熱を逃がさない校舎をつくるということも重要なことである。
- ・ 暑い国や地域では必ず幅の大きい庇や軒があります。ぜひ新しい校舎にはベランダをつけていただきたい。4年生の教室のベランダによしずを張っただけでかなりの気温差を感じましたので、そういったことが可能になるように、ベランダは必ずつけていただきたい。
- ・ 私の子どもは学校の芝生の上でサッカーをすることが夢なのだが、学校に芝生があつて、緑があつて、自然な空気が流れているというのは本当に理想的だと思う。
- ・ これだけの敷地の中でどれだけのものができるのかを、専門家の方の立場から提示していただけるともっとよく考えられる。
- ・ 暑い都市環境のため、校舎の断熱性をよくした上で、ぜひ冷房を入れていただきたい。また、冬も化石燃料を燃やすタイプの暖房ではなく、ヒートポンプ式が環境によいと考える。それにより、夏も冬も快適な学習環境がつけれる。
- ・ 自然採冷ということで、校舎に植栽など配慮していくのも、やはりお金がかかる。どちらがお金がかかるのかということなども細かく検討すればよい。
- ・ 子どもたちには将来のエネルギーについて学習していただきたいと思いますので、太陽光発電、風力発電など、環境教育ができる程度の規模でよいですから、設置していただきたい。
- ・ ウッドデッキがよいと感じた。
- ・ 単に木が植えてあるだけでなく、生活空間の中で植えられているのがよい。
- ・ ビオトープの設置、別棟の理科学習室の併設を希望する。
- ・ 南池袋小を視察して、太陽光発電による電力を蓄電できるかということに興味を持った。

杉並第五・若杉統合新校校舎建設基本方針柱立て（案）

2－（3）児童の運動スペースの確保

限られた敷地の中で校庭、体育館、屋上等について可能な限り児童が運動できるスペースを確保する。

- | | |
|------------------|---|
| 関
連
意
見 | <ul style="list-style-type: none">子どもたちがのびのびと遊ぶスペースがこの地域にはないので、学校の中にはできるだけ子どもたちが遊べるスペースを確保していただきたい。屋上緑化やビオトープなどをつくることによって子どもたちが走り回れるスペースが減ることのないように、また、校庭緑化などで、芝生化した場合、養生期間に子どもたちが遊べなくなりますので、そういった養生期間のいらぬ草を使っていたらいいか。緑化やビオトープづくりなどをすればするほど、子どもたちの遊ぶスペースが少なくなってしまうのではないかと。限られた敷地の中に建設するため、そういったことも考慮していただきたい。緑化をするにしても、屋上の上に藤棚を設けるなど、子どもたちが運動の場として屋上を使えるような形にすればいいのではないかと。1階部分を全て校庭として使い、子どもたちが十二分に走り回れるようにしていただきたい。体育館の観覧席や更衣室、運動場の夜間照明など、運動施設の充実を希望する。校庭を校舎裏を回ることのできるランニングコースや、体力づくりに取り組むためのトレーニングルームの設置を希望する。プールは可動床式で、地域のニーズを踏まえた水泳指導に活用できるものを希望する。 |
|------------------|---|

2－（4）ユニバーサルデザイン

児童から高齢者まで、障害のある人にも不自由なく使いやすい校舎づくりを行う。

- | | |
|------------------|--|
| 関
連
意
見 | <ul style="list-style-type: none">今後、相当程度障害を持った子どもも、普通学級の中で共に勉強していくことになるほか、地域の方が学校を利用する中で、相当程度障害を持った成人の方、高齢者の方も利用され、この学校を拠点としているいろいろな活動をするのが、今後どんどん進んでいくような校舎づくりをしてほしい。地域の中の拠点という部分と併せて、校内でも児童の特別支援教育の体制を踏まえたユニバーサルデザインを考えていかなければならない。南池袋小には、各階に車椅子トイレがある。ユニバーサルデザインを進めていくことは大切だと思っているので、是非参考にしたい。 |
|------------------|--|

3－（1）地域開放を考慮したスペースの整備

施設の地域開放のため、学校専用のゾーンと地域開放可能なゾーンを分けて計画したり、学校を支援する地域の人たちのスペースに配慮する。

- | | |
|------------------|---|
| 関
連
意
見 | <ul style="list-style-type: none">杉並第十小学校は、公園と学校が一体化しており、プールも地域の方が使えるようになっていて、学校と地域が連携している感じが出ている。すでに学校は地域の中で適当な広さを備えた避難場所として認識されている。子どもたちの教育現場プラス地域への密着度、これが重要だと考える。新しい学校は地域開放型の学校であってほしい。家庭科室などの特別教室を地域に開放するために普通教室のゾーンとは分けて計画したり、地域開放型のコミュニティスペースなども併設されるといい。土曜日学校などの活動を行っている立場としてそういったスペースがあると嬉しい。学校開放は、たとえば授業中でも地域の方に使っていただくということがあってもいいのではないかと。子どもたちが勉強しているそばのオープンスペースで高齢者の方が何か作業をしているというような、子どもも高齢者も同時にいる状態というのも、地域の中の学校としての一つのステップだと考える。説明のあった多治見市の中学校は、地域の方が通り抜ける道があり、地域の方が授業中の中学校を通り抜けていく、というのが非常に興味深かった。 |
|------------------|---|

杉並第五・若杉統合新校校舎建設基本方針柱立て（案）

3－（2）安全・安心な学校 見通しのよい計画や防犯カメラなどにより死角の少ない学校とする。	
関連意見	<ul style="list-style-type: none">・ 物理的に門などは閉じるようになっていくということだが、統合新校はどのような形で作るのか。・ 窓辺に柵が置いてあって、なんでこんな危ない場所があるのかと思った。安全面については十分注意して設計していただきたい。・ 防犯カメラによって児童昇降口や廊下・階段のモニタリングができるよう、希望する。・ 各門扉のオートロック化とモニターの設置を希望する。
3－（3）災害時の地域の復旧拠点としての校舎 防災まちづくり計画に沿って、災害時の延焼遮断や地域の復旧拠点として、十分な機能と使い勝手を備えた校舎とする。	
関連意見	<ul style="list-style-type: none">・ 防災の拠点、地域との連携の拠点としての施設づくりというのも大切である。・ 震災時避難所としてこの学校が大きな役割を果たしていく。・ 建物の上に木や土が乗るのは耐久性などの観点から問題はないのか。・ 災害時には電気やガスの供給の停止が予想されるので、自家発電設備を備えていただきたい。
4－（1）地域のランドマークとなる校舎づくり 地域住民にとって、この学校が親しみを持って、児童にとって思い出に残るような外観等を整備する。	
関連意見	<ul style="list-style-type: none">・ 統合新校の建物に、子どもたちにとってシンボルになるようなものがあればよい。シンボルは地域にとってのランドマークにもなるように地域住民にとってもこの学校が親しみを持てるように、そういうものがあるとよい。
4－（2）旧校の思い出を残した校舎 杉並第五小学校、若杉小学校という二つの学校があったことの記念となるものを設置する。	
関連意見	<ul style="list-style-type: none">・ 杉並第五小学校と若杉小学校という二つの学校があったことを記念するものが学校のどこかにあるとよい。・ 南池袋小を視察して、旧校の記念品の保管は、時間が経つと難しくなると思う。スペースの確保も大事だが、校舎の端に記念碑を建てた方がずっと長く、確実に残るのではないかと。

杉並第五・若杉統合新校校舎建設基本方針柱立て（案）

建設計画全体に関する意見・要望

- この杉並第五小学校と若杉小学校の地域が、どういう地域で、この学校の本当にオリジナルな教育目標はどんなところにあるのかということ、まず議論していただくことを期待したい。
- 教育目標についてはこれから決定していく部分があるが、杉並区全体の知・徳・体・食という教育ビジョンの考え方を踏まえて、キャリア教育、体力増強のための健康教育なども重点的に行っていきたい。教育内容と連動する施設建設等の考え方もおそらくそこでは出てくるのではないかな。
- 杉並区の教育ビジョンについて、杉並区という地域、杉並区の子どもたちを見据えたビジョンだということ認識していく必要があり、委員の皆さんにもこの教育ビジョンの内容を十分理解していただきたい。
- 学力の問題、人間性をつくる問題、どういう場所でどういう生活環境をつくっていくのか、そういったことを話し合っていくのがこの場である。
- 予算は限られているので、いつか理想と予算とのバランスについて考えなければならない。
- 現実に与えられた敷地面積と理想とのバランスを考えることが一つのテーマとなる。
- 統合新校と同じぐらいの規模の学校について参考として見学できないか。子どもが実際に授業を行っている時に見学できればと思う。
- 学校事例を見学したり、見学できなくてもスライドなどで紹介していただきたい。
- 「先進的」で「カッコいい」ものは多くあって、そういったものを取り入れたいという気持ちもあるかもしれないが、本当に現場の先生方と子どもたちには何が必要なのか、注意して考えていきたい。先進的なものについても、後で無用の長物とならないように、長い計画で考えたい。
- 若杉小学校の敷地に地域の方が利用できるプール付きのスポーツ施設をつくって、統合新校にはプールをつくらずに子どもたちはプールの授業の時はそこに通うというのも一つの案だと思う。
- （予算措置制度のこととして）新校舎竣工後も手直しが必要な箇所が発生する。その際、すぐに直せるような制度、予算措置が必要だと南池袋小を視察して感じた。